

第9回全国礼拝音楽研修会だより

2013年3月20日（水・祝） 於：日本バプテスト広島キリスト教会
第9回全国礼拝音楽研修会
（教会音楽専門委員会議主催／中国・四国バプテスト教会連合協力）

研修会テーマ 「礼拝さ・い・こ・う」
聖書箇所 創世記1：1～5

《プログラム》

- 10：30～12：00 開会礼拝
基調講演「礼拝～混沌のなかの光、そして道しるべ」
（基調講演講師：井形 英絵
日本バプテスト連盟 南光台キリスト教会牧師）
- 12：00～13：00 昼食と交わり
- 13：00～15：00 分科会 ー礼拝に仕えるためにー
- | | |
|-----------|--------------|
| ①会衆賛美 | 山中 臨在（浦和） |
| ②会衆に仕える伴奏 | 福田 のぞみ（富野） |
| ①礼拝と賛美 | 藤井 秀一（酒田のぞみ） |
| | 江原 美歌子（相模中央） |
- 15：00～16：00 派遣礼拝

参加人数： 91名（スタッフ・託児含む）

～研修会に参加して～

《研修会を通して ～ 会衆賛美》

有明教会 江見佳代

今回の研修会は、『礼拝 さいこう』～再考. 再興. 最高～ をテーマに掲げ、広島教会を会場として90名程の方がお集まりになりました。

午前の基調講演は、井形英絵先生のメッセージでした。2011年3月11日の東日本大震災において、生活の基盤が全て絶ちきられた中、幾週間も、教会員の安否確認から始まり、「混沌の中の光、そして道しるべ」としての主日礼拝を捧げられた様子を、先生は目を輝かせ、言葉1つ1つを聖霊の導きにより語られました。

昼食をはさみ、午後は各分科会へ別れての研修でした。私は山中臨在先生の「会衆賛美」分科会に参加。私は「会衆賛美」というテーマがどのようなものかと期待しつつ参加しました。期待通り、まさに「さいこう」の内容でした。約2時間、あっという間でした。

- 1) 手足をつかって歌うウォーミングアップ
- 2) 賛美歌詞の譜面上での説明
- 3) ミーター（韻律）の説明
- 4) 速度、強弱、フェルマータのつけ方

など、面白くあきのこない話術で解き明かして下さいました。会衆賛美とは、祈りを表し、神様に最高の価値を捧げると学びました。最後に私にとって、一番印象に残り、絶対

に忘れない言葉をお分かちたいと思います。

祈りとは、ね・こ・と・さ・か・な（猫と魚）

ね～願う こ～告白 と～執り成し さ～賛美 か～感謝 な～なんでも

とても有意義な学びの時でした。研修会最後の派遣礼拝も会衆が皆高らかに賛美し、特別賛美を広島教会の聖歌隊の皆様が、メッセージのとりつぎを藤井秀一先生がして下さいました。全て導きの中に守られた研修会で、参加者のお一人お一人が、学びを各々の教会へ持ち帰りお分かちされた事と、心から主に感謝致します。

《会衆に仕える伴奏》

高松常磐町教会 木村法子

私は、講師が自分と同じように和ガンを専門とされていることや、分団内容に関して事前にアンケート調査があったことから、奏楽者の悩みや課題を共有する学びができることを期待して臨みました。また、参加者の多くが、コード譜やピアノ伴奏譜をどのようにアレンジして弾いたら良いかという課題を持っていました。

講義では、会衆に仕える奏楽者の役割、会衆賛美をリードするにあたって何に注意するかなど、基本を確認しました。ただ譜面通りに弾くだけではなく、歌詞や曲についてももっと深く調べる必要があることを教えられました。実技は、参加者が交代で、普段の礼拝で使用している楽器で準備してきた賛美歌を弾き、他の人が歌う形式。実際に歌ってみると、テンポが速すぎたり遅かったり、息継ぎの間が取れなかったりなど、課題が見えてきました。また、長く伸ばす音に拍子感を出すための合いの手、メロディーを重音にして盛り上げる等、様々な可能性があることを知りました。

一番印象に残っていることは、歌詞を大切にすることです。歌詞をよく読み、言葉の音節に合わせた弾き方(切り方)をし、内容に合わせてアレンジしていくこと。学び全体は、会衆がより気持ちを込めて賛美するために、どのように会衆賛美を引き出し支えていくのかに向けられ、奏楽を通して会衆に仕えていく、ということ改めて教えられました。

参加者それぞれに応じたアドバイスを下さったことを、心から感謝致します。

《礼拝と賛美》

広島教会 高木由美

今回の研修に参加して最も心を動かされたのは基調講演でした。大震災によって全て失った中から見出したもの、神を礼拝することの原点に触れる学びだったと思います。

私が参加した分科会『礼拝と賛美』は、この講演を受けた話し合いから始められました。「礼拝は自明のことではない！」「礼拝は1回限りであることを意識しよう」「非日常の中の日常」といった講演で学んだ言葉は、とかく習慣化してしまいがちな礼拝のあり方を見直す、よい機会となりました。

次に、実際の礼拝式はどのように構成されているか、特に賛美歌としてはどんな曲が「啓示」、「応答」、「交わり」にあたるかを考えました。また礼拝では、会衆はどのように参与しているかについて“オペラ劇場のたとえ”で考えました。「歌手」、「プロンプター（歌手に歌詞を示す役）」、「観客」にあたるものは？ここでは、実際は会衆もただの観客ではなく、また、牧師や司会者、聖歌隊…も様々な立場に変わりうることを知りました。お互いが参与しあって礼拝が豊かなものとされ、集う全ての人に恵みが与えられることを学びました。

この学びを通して、いつも本当の礼拝の姿を心のうちに持ちたい、そして神の前に立つ緊張感をもって教会の営みに参加していきたい、と思いました。